

団体名	菊川市立総合病院
会計名	病院事業会計

⑤ 公営企業債現在高

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	7,717	7,290	6,786	6,560	6,346	8,088
実績(見込)値1(B)	7,680	7,395	7,400	6,981	6,587	
経済危機対策影響額 (C)			-	-	-	
実績(見込)値2(D) (B-C)	7,680	7,395	7,400	6,981	6,587	
乖離値1(E) (A-B)	37	▲105	▲614	▲421	▲241	1,501
乖離率1(F) (E/A)	0.5%	-1.4%	-9.0%	-6.4%	-3.8%	18.6%
乖離値2(G) (A-D)	37	▲105	▲614	▲421	▲241	1,501
乖離率2(H) (G/A)	0.5%	-1.4%	-9.0%	-6.4%	-3.8%	18.6%

(ii) 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
4条(資本的収入及び支出) 予算における収支は、当初は 起債なしで計画をしていまし たが、現金預金(内部留保 金)の減少が大きくなったこと から、起債を発行して医療機 器の購入と更新を実施し、資 金不足補うようにしたことが 未達成の理由です。	-37	105	614	421	241	
合計	-37	105	614	421	241	

(iii) 実績(見込)値1が計画目標値に届かない理由

4条(資本的収入及び支出)予算における収支は、当初は起債なしで計画をしていましたが、現金預金(内部留保金)の減少が大きくなったことから、起債を発行して医療機器の購入と更新を実施し、資金不足補うようにしたことが未達成の理由です。

(iv) 改善に向けた取組み及び今後の見通し

新病院(病院の移転)となり、10年が経過し、医療機器の更新時期を迎えており、今後、計画的に更新をしていき、企業債(借入)を計画に合わせて実施して行きたいと考えています。

また、医事課業務の関係では、H21年度から2か年度に掛けて、電子カルテやオーダーリングシステムの導入を図っていることから、効率的な運用を目指し、将来的に収益が向上するよう病院事業の集中と選択を図って行きたいと考えています。

団体名	菊川市立総合病院
会計名	病院事業会計

③ 職員数

(i) 推移表

(単位:名)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	平成21年度 計画目標値
計画目標値(A)	279	277	275	273	272	275
実績(見込)値(B)	275	274	275	273	272	
乖離値(C) (A-B)	4.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0
乖離率(D) (C/A)	1.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%

(ii) 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響人数(単位:名)					備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
合計						

(iii) 実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

(iv) 改善に向けた取組み及び今後の見通し

団体名	菊川市立総合病院
会計名	病院事業会計

④ 改善額

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	-5	5	15	25	30	70	4
実績(見込)値(B)	-1	5	15	25	30	74	
乖離値(C) (B-A)	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	70.0
乖離率(D) (C/A)	-80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	1750.0%

(ii) 要因分析

改善額合計の 未達成の要因	影響額(単位:百万円)						備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計	
合計						-	

(iii) 実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

(iv) 改善に向けた取組み及び今後の見通し

団体名	菊川市立総合病院
会計名	病院事業会計

⑥ 累積欠損金比率

(i) 推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	33.1	34.4	33.8	33.3	30.9	36.4
実績(見込)値(B)	47.4	58.5	63.2	68.1	67.1	
乖離値(C) (A-B)	▲ 14.3	▲ 24.1	▲ 29.4	▲ 34.8	▲ 36.2	▲ 30.7
乖離率(D) (C/A)	-43.2%	-70.1%	-87.0%	-104.5%	-117.2%	-84.3%

(ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)	
	計画目標値算出時(A)	実績見込値算出時(B)
分母(営業収益等)	4,291	4,304
分子(累積欠損金)	-1,326	-2,888
累積欠損金比率	-30.9	-67.1

分母悪化要因

(単位:百万円)

要因	影響額(百万円)	備考
看護配置7:1の基準を取得することについて、看護師が不足したことからできなかったためです。	100	
合計	100	

分子悪化要因

(単位:百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因
	計画目標値(A)	実績見込値(B)		
平成19年度	▲ 464	▲ 465	1	
平成20年度	▲ 506	▲ 484		
平成21年度	▲ 68	▲ 304	236	看護配置7:1の基準を取得する期間が計画よりも短期となったことが理由です。
平成22年度	▲ 43	▲ 223	180	
平成23年度	3	▲ 5	8	
合計			425	

(iii) 実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

- 平成20年度の診療報酬の改正が、▲(マイナス)となったことにより、収益が伸びず、経費との対比の結果欠損金が悪化しました。
- 看護配置7:1の基準を取得することが、計画どおりできず、10:1の基準を取得できませんでした。(2,550円/人・日)
- 外来患者が減ってきていることから推測がされますが、薬を長期投与する患者が多くなったと見込まれ、薬価分の収益が下がってきました。

(iv) 改善に向けた取組み及び今後の見通し

- 看護師の人材確保に積極的に取り組み、看護配置7:1による入院診療単価の増加による入院収益の増加につなげていきたいと思ひます。
- 経費を増やさずに、診療報酬を上げていき、収益の増加を図るとともに、経常的な経費の削減に努め、黒字化を目指して行きたいと思ひます。
- コンサル会社の提案のもとに、病院の経営体制の強化を図って行きたいと思ひます。
- 病院の中期計画を平成21年3月に策定したことから、その計画に則った運営をして行きます。
- 病診(病院と診療所)及び病病(病院と病院)の連携を強化し、病院完結型の医療から機能別に分けた連携型医療をの定着を目指して行きます。